

お知らせコーナー

【本とあそぼう】 全国訪問「おはなし隊」 が一之宮町にやってくる!

全国訪問おはなし隊は全国各地の保育園・公民館などを絵本550冊を載せたキャラバンカーで訪問し、子どもたちに絵本を楽しむ時間をお届けしています。

おはなし会で絵本の読み聞かせや紙芝居を体験したり、キャラバンカー内の絵本を自由にすることが出来ます。



**日時：6月23日(火)午前10時～11時、保育園児参加
午後1時半～2時半、小学校1・2年生参加**
場所：一之宮公民館裏の駐車場および和室
申し込みは不要です。直接会場へお越しください。

サタディサークル参加者募集!

宮小中学校の児童・生徒のみなさん、サタディサークルが今月から始まります。

サタディサークルが今月13日の土曜日から始まります。サークルの内容は次の通りです。(「ふるさと探検」は小学校3年生から、そのほかは小学校1年生から参加できます)
・ふるさと探検 ・卓球 ・ローラースキー ・お茶
・ふるさとのお菓子づくり

これまで大正琴がありました、今年は休止します。新しく、昔から地域に伝わっているお菓子作りのサークルが始まります。サークルに加入したい児童・生徒のみなさんは、学校を通じて配る申込書に必要事項を書いて申込んでください。



**公民館から
展示コーナー**
飛驒の焼物(中古)展
(7月中旬まで)
6月の公民館定休日
8日(月)22日(月)
6月の位山交流館定休日
1日(月)8日(月)15日(月)
22日(月)29日(月)

おはなし会の案内
6月13日(土)午前10時30分
スタッフによる
絵本の読み聞かせ・
手遊び。
申し込みは不要
です。お気軽に
参加ください。



図書館だより
雨の多い6月、外に出られない日は本を開いて過ごしてみませんか?
お知らせ
他の分館と本の交換を行いました。新刊コーナーの隣で紹介しています。ぜひご覧ください。
今月の特集
雨の日に読む短編小説
家にこもりがちな梅雨の季節。そんな時、気軽に読める短編小説はいかがですか?
雨の多い6月、外に出られない日は本を開いて過ごしてみませんか?
お知らせ
他の分館と本の交換を行いました。新刊コーナーの隣で紹介しています。ぜひご覧ください。



高齢者のみなさんの生活をサポート!
支所内に担当者が常駐してご相談に応じます
地域包括支援センター「一之宮ランチ」開設
高齢者のみなさんの介護や医療、財産管理など生活上の様々な悩みについて、専門の保健師や主任ケアマネージャー、社会福祉士が連携して総合的に相談に応じる「一之宮ランチ」が支所内に開設されました。

介護サービスや医療のこと、虐待など人権上の問題、また、財産の管理や契約行為についてなど、困ったことがあったら何でもお気軽にご相談ください。

電話：53-2211(一之宮支所)

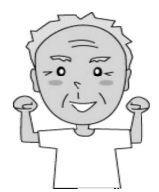
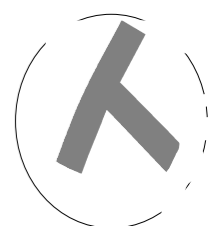
申込締切：6月6日(土)
提出先：一之宮公民館
申込用紙は公民館にもあります。
まち協文化研修会募集のお知らせ
まち協文教委員会では「芸術と日本の技術にふれる旅」と題して次の内容で文化研修旅行を実施します。
まだ若干余裕がありますので、希望がありましたらお申し込みください。
日時：6月21日(日)
行き先：ボストン美術館、リニア・鉄道館、トヨタ産業技術記念館、キリンビール見学
参加費：9,000円
希望される方は電話(53-2424)等で申込み状況を確認のうえ、公民館にある申込書でお申し込みください。



自家製の小屋の前で、作成中の彫刻を見せいただきました。

その彫刻は一之宮文化祭に出品する予定の作品で、イチイの木質を活かして、細かいところまで丁寧に彫られた見事な龍の彫刻でした。ほば
完成しているが、まだもう少し塗装をして仕上げる、と意気込んでみえました。
手先の器用な三木さんは、昨年は山下地区にある白山神社の社名額を寄贈したり、神社内の枯れた大木を切ったりされています。
三木さんの昔の仕事は、今の森林管理所の前身である営林署の保線区勤務で、宮川の上流の国有林へ通ってみえました。保線区という部署は、森林鉄道の線路を守ることから営林署にもあったそうです。営林署は駅裏にあり、そこから森林鉄道が三木さんの家の裏を抜けて、山に沿って敷かれていました。
保線区の仕事は、運搬方法が、森林鉄道からトラック輸送に代わるにつれ、軌道の整備から、大型機械を使った道作りや伐採などの仕事に変わっていったそうです。
日々いろいろやるのがあって時間が早くすんでしまうと言われる三木さん、今の楽しみは、カラオケということでした。この取材の翌日には、萩原で開かれる飛驒のカラオケ大会へ行くのだと張り切ってみえました。
小屋から彫刻まで何でも器用に手づくりする姿は、まさに「まちな人」だなぁと感じました。(山腰)

完成しているが、まだもう少し塗装をして仕上げる、と意気込んでみえました。
手先の器用な三木さんは、昨年は山下地区にある白山神社の社名額を寄贈したり、神社内の枯れた大木を切ったりされています。
三木さんの昔の仕事は、今の森林管理所の前身である営林署の保線区勤務で、宮川の上流の国有林へ通ってみえました。保線区という部署は、森林鉄道の線路を守ることから営林署にもあったそうです。営林署は駅裏にあり、そこから森林鉄道が三木さんの家の裏を抜けて、山に沿って敷かれていました。
保線区の仕事は、運搬方法が、森林鉄道からトラック輸送に代わるにつれ、軌道の整備から、大型機械を使った道作りや伐採などの仕事に変わっていったそうです。
日々いろいろやるのがあって時間が早くすんでしまうと言われる三木さん、今の楽しみは、カラオケということでした。この取材の翌日には、萩原で開かれる飛驒のカラオケ大会へ行くのだと張り切ってみえました。
小屋から彫刻まで何でも器用に手づくりする姿は、まさに「まちな人」だなぁと感じました。(山腰)



三木 孝一さん
(山天下)

まちよに手作業 趣味を楽しむ



地域に育まれる子どもたち

奥原 祐子 さん(宮保育園長)

私が一之宮にお世話になって5年目に入りました。時を重ねるごとに地域の方々の優しさや温かさに触れ感謝の気持ちでいっぱいです。
ある時、子どもたちが遊びの中から祭り行列を始めた時がありました。ダンボールの獅子頭にシートをかけ、段ボール箱を太鼓にし、空き缶をたたき、ホイッスルを吹き、ダンボールの御輿を担ぎ……。それは子どもたちが考えた最高の祭り行列でした。
子ども達は保育園だけでは物足りず、園外に出かけていく事になりました。
小中学校では、校舎に上がらせてもらい、児童・生徒のみなさんからは手を振ってもらったり拍手をもらったりして得意気でした。支所へお邪魔した時にはみなさん仕事の手を止め見てくださって、おひねりの代わりに、うちわを頂きました。公民館の前を通った時には公民館を利用していただ方も出てきてみんなで手を振って下さいました。近くのおばあちゃんは手を合わせて見て下さり、たまたまみえたお巡りさんは横断歩道で交通整理までして下さいました。



公民館の前を祭り行列する園児

地域の方がこんなにも子どもたちを温かく見守ってくださるところはそうそうないと感動しました。私も一之宮の祭りが大好きですが、子どもたちもお祭り大好きです。そのお祭りを自分たちもやったという達成感や喜びで自信に満ちた表情をしていました。
地域の方と色々な関わりをさせてもらっている中で子どもたちは地域の方に育ててもらっていることを痛感しております。地域の人との関わり、自然との関わりは子どもたちの原体験です。
たくさんの体験をしてふるさとへの思いを持ち、大きくなって欲しいと願っています。



つばやき
夜外に出て見ると、合唱グループが歌った歌よろしく田んぼの蛙たちの大合唱が聞こえて来る。少々うるさくもあるが、春の風物詩である。俳句の世界では、「蛙」は春の季節である。「青蛙」は夏の季節である。田植えも終盤を迎え、夏への季節の移ろいを感じる梅雨の到来である。この季節、雨もまた楽しからずやの気持ちで過ごしたいものである。因みに「梅雨」は夏の季節である。(影郎)

一之宮町の人口情勢

世帯数		814戸	
年齢	男性	女性	合計
0～14歳	193	161	354
15～64歳	708	738	1,446
65歳以上	333	458	791
合計	1,234	1,357	2,591

5月1日現在・単位：人 3

日	曜日	行事内容
1	月	特定健診(保健センター)
2	火	特定健診(保健センター)
3	水	人権相談(交流館)
4	木	行政相談・心配ごと結婚相談(交流館)
13	土	サタディサークル及び開講式(公民館)
21	日	まち協文化研修
21	日	高山市消防操法大会
22	月	町内会長会

公民館だより

女性委が総会を開催

一之宮町まち協女性委員会総会が、5月8日に一之宮町公民館で開催されました。役員や各地区の理事、支部長など33名が出席し、前年度の活動・決算報告や今年度の事業計画・予算案等の協議が行われました。

総会では、今年度活動方針の「楽しんで参加し、つながりを深めよう」をテーマに、地域のつながりや親睦を深め、意見を出し合い活動をしやすいて行くことが確認されました。

今年度は、乗鞍高原山麓ウォーキングをはじめ、6地区の理事が中心となり地区ごとの活動が計画されています。(広報委員：牛丸)



公民館で開かれた女性委員会総会

宮中野球部県大会出場

宮中学校野球部が全国少年軟式野球大会の地区予選を勝ち抜き、5月2日の美濃加茂市前平公園野球場で開催された岐阜県大会に駒を進めました。



多治見中と戦う宮中野球部

全学年での県大会出場は、数年ぶりの快挙です。

初戦となった多治見中学校との試合では、部員28名が一丸となって戦いましたが、惜しくも敗れました。この悔しさをバネに、これからの頑張りをお願いします。(広報委員：伊藤)

女性委員がボランティア

まち協女性委員会では、5月24日に役員や各地区の理事、支部長によるボランティア活動を行いました。

内容は、カロリアでの施設周辺



公民館玄関のガラス拭きをする参加者

の草取りと一之宮公民館でのガラス拭きや周辺の草取りで、たくさんの方が参加したため作業はスムーズに進みました。

爽やかな新緑の中で行った今回のボランティア、活動を通じて人とのつながりが増えたことや、カロリアや一之宮町公民館を安心して気持ちよく利用してもらえることに貢献でき、参加者の大きな喜びとなりました。

作業後は、「そばの中仁」で、美味しいそばづくしの昼食をとり、労をねぎらい、懇親を深めました。(広報委員：牛丸)

宮小で交通安全教室



シートベルト体験車を前に説明を受ける5年生

宮小学校で5月8日に交通安全教室が開かれ、子どもたちが高山警察署や高山市交通安全協会の担当者から指導を受けました。

このうち1、2年生は自転車の安全な乗り方について指導を受け、3、4年生は交通安全に関する話やDVDで安全に対する意識を高めました。

また、5、6年生はシートベル

ト着用効果体験車に乗って、シートベルトの効果について体感しました。

特に今回のシートベルト体験を通じ、小学生の関心する交通事故の約半数が自動車同乗中に発生し、一般道での後部座席シートベルト着用率が35%と低い中、児童に対するシートベルト着用率が高まることを望まれます。

宮小でふれあいタイム開始

地域の人を講師に小学4年生以上の児童が学ぶ「ふれあいタイム」が5月21日から宮小学校で始まり

ました。これは、お茶、大正琴、ゲートボール、グラスアート、絵手紙、スポーツの6種目のうちから希望する科目を学ぶクラブ活動で、毎週木曜日、11月までの7か月にわたり行われます。

講師を務めるのは地元の人16人で、会場は学校のほか一之宮公民館やゲートボール場。子どもたちは地域の人を先生に、普段学校の授業では学べない貴重な体験をす



「お茶」で座り方から作法を学ぶ児童

ることになります。

宮峠トンネルで意見交換

国道41号線の宮峠トンネル事業の意見交換会が5月26日に一之宮支所で開かれました。交換会は、宮峠トンネル(石浦バイパス1工区)の工事を着工するにあたり、事前に地元から意見を聞きスムーズな工事着手を行えるよう、国土交通省高山国道事務所と市が開催したものです。

交換会には地元から20人ほどが出席し、国道事務所や市の担当者から説明を聞いた後質疑応答を行いました。説明は、路線計画や今後の予定作業、前回の質問に対する確認事項、また、トンネル工事による地下水影響等について行われました。

出席者からはたくさん質問や意見が出て、担当者との間で応答が行われていました。



国道事務所の担当者から説明を受ける参加者

一之宮まち協だより

第13号

平成27年6月1日

一之宮町まちづくり協議会
広報委員会

高山市一之宮町3087
電話 53-2424

県外中学7校から1200人が農業体験

県外の中学生による田植えが、今年も町内数か所の田んぼで行わ

れました。

これは、社団法人「ふるさと体

験飛騨高山」が企画運営して、一之宮町では主に「ひだ一之宮グリーン体験宿」が受け入れて実施している中学生の体験学習事業です。今年の田植え体験は5月11日から始まり、愛知県や大阪府の中学校7校から合計で約1200人が訪れました。

体験学習の内容は、田植えを中心にした農業体験や五平餅づくりなどの食体験で、指導役は町内の民宿等7軒のオーナーらが受け持ちます。

期間中は町内の民宿が生徒を受け入れ、1泊2日から2泊3日の日程で生徒の世話をするため、民宿側では最も忙しい時期です。

そのうち、5月14日には東大阪市の高井田中学校の3年生100人が田植えを体験しました。位山をバックに、五月晴れのなか指導する農家の人達とともに、裸足で代かきされた田んぼに入り、一斉に苗を植えていました。収穫した米は学校の希望に応じて送られます。



位山をバックに慣れない手つきで苗を植えていく体験学習の中学生

この後の28日には学校裏の宮川でカワゲラウォッチングをして、源流から出たばかりの水のきれいさをチェックしました。

さらに今月は富山県の岩瀬浜の学校を訪問し、宮の源流の素晴らしさを伝えるとのことです。

(広報委員：中島)

宮小の源流探検

宮小の5年生による源流探検。源流のある一之宮ならではの授業で、この時期になると毎年実施されている恒例行事です。

5月22日、学校を出発した5年生26人は、一之宮町の大部分の水源となっている蔵柱谷でバスを降り、水源を求めて登りました。

一帯は、昔の炭焼が行われた林。児童たちはナラやブナなどの広葉樹が生えているところと、ヒノキなどの植林された針葉樹が生えているところを見学しながら登りました。やがて、蔵柱谷の水流が見えない上流部に到着。みんな目を閉じて静かにしてもらおうと・・・、地面の下から、地下水が流れる音が聞こえてきました。

ここで伏流水の音を聞いたり、川の透明度を測ったり、また湧水を飲んだりして、芽吹きがはじまったばかりのブナやミズナラが広がる森の世界をしばらく味わいました。



地中を流れている水の流を聞き、耳を澄ます児童